

平成 27 年度事業計画書

学校法人新潟青陵学園

少子化が続く中で、学園の教育と経営をめぐる環境条件は、ますます厳しさを増している。

現在、私立大学の4割強は定員を充足し得ず、多くの法人で経営の悪化が続いている。今後、こうした傾向は、ますます加速化するものと思われる。また、東日本大震災以降、老朽校舎の耐震対策が喫緊の課題となっているが、震災復興及び東京オリンピックに向けた施設整備の活発化による建築コスト高騰や消費税増税など、マイナス要因も増大している。しかし、いかなる環境に置かれようとも、学校間競争を優位に展開するための教育改革と学習環境の整備、財政の改善にもつながる入学者定員の充足、老朽化校舎の耐震工事と代替校舎の建設等の課題を、学園の総力を結集して解決していかなければならない。

現在、本学園では、新潟青陵高等学校の高大一貫コースでの高校・大学・短期大学部の連携や、大学院大学教員の支援による幼稚園子育て講座の開催など、同一または隣接キャンパスのメリットを生かし全学的な協力体制が進んでいる。平成 27 年度においても、他の県内学校法人にない、幼稚園、高校、大学、大学院を有する本学園のメリットを十分に生かすため、これまで以上に連携・協調するとともに各学校が単独で行う事業においても常に学園全体の利益を意識して厳しい経営環境を乗り切っていく。

【新潟青陵大学・新潟青陵大学短期大学部】

新潟青陵大学・短期大学部においては、平成 26 年度は両大学とも入学定員を確保できた。両大学とも県内出身学生の比率が 90%以上を占めていることから、今後も引き続き高校訪問を中心とした高校とのネットワークづくり、学科の情報提供等を進めていく。また、中央教育審議会の『質的転換答申』（平成 24 年度）及び教育再生実行会議の第 3・4 次提言（平成 25 年度）等で求められている教育改革を積極的に推進し、社会において必要とされる大学・短期大学部を実現していくとともに、学長のリーダーシップ及び大学としてのガバナンス体制の強化を目的とした平成 27 年 4 月からの学校教育法等の一部改正に対応し、戦略的な大学運営を推進するためのガバナンス体制を確立するため、引き続き検討を重ねる。しかし、他大学・短大との差別化を図るには、教員が学生一人ひとりと目的意識を共にし、高めあう教育が必要であり、その徹底が求められる。

①大学・短期大学部全体では、迫りくる少子化の波に対応し、魅力ある安全なキャンパスとするための再整備計画として、幼稚園棟の完成に引き続き、現行の 1・2 号館を 1 棟として新規に幼稚園跡地に建設を開始（平成 28 年末完成予定）する。新棟には、現行の 1・2 号館の機能に加え、図書館を移設し、学びの場を充実させ、併せて地域に開かれた大学づくりを進める。

また、大学の使命の一つである社会貢献を積極的に推進するため、両大学における社会貢献の窓口として「地域貢献センター」を設置する。併せて、地方自治体・地元産業界等及び他大学との連携を進めていく。

受験生確保の面から、出願手続き負担軽減を目的としてインターネット出願システムを導入する。

学生支援面では、健康管理センターに専任の臨床心理士を配置し、エンロールメントマネジメントの観点から、入学から卒業までの一貫した学生支援体制の確立を目指す。また、経済困窮者を対象とした授業料減免措置を継続して行うこととし、大学・短期大学部とも在籍者数の 10%を対象に

授業料の1/2を奨学金として支給することに加え、成績優秀な学生確保の一環として授業料減免制度と同程度の規模で特待生制度を新設する。

②大学では、大学院看護学研究科が完成年度を迎えることから、引き続き学生確保と円滑な運営に努める。また、大学院学生確保と学部実習先の質的向上及び連携強化のため、新たに、学部で実施している親子・兄弟姉妹奨学金制度及び学部実習先からの入学生への入学金免除制度を新設する。

学部においては、看護学科及び福祉心理学科の専門教育の高度化・多様化に対応するため、看護福祉心理学部を看護学部及び福祉心理学部に分離改組し、2学部間及び福祉心理学部内に設置する社会福祉学科及び臨床心理学科2学科間における連携の下に教育・研究を行い、医療福祉面での人材の養成を目指す。特に福祉心理学部臨床心理学科においては、大学院臨床心理学研究科との連携により心理臨床家養成を図る。

また、今後の教学運営方針として、長期目標（2014年～2023年）及び中期目標（2014年～2018年）を設定し、7つの基本項目に分けて中期活動課題及び活動計画を策定した。

③短期大学部では、平成27年度より成績評価において新たにGPA制度を導入する。また、短期大学部をファーストステージとして4年制大学に編入学を希望する学生を支援するための体制整備を引き続き行う。さらに、卒業生の資格取得を支援して、短期大学の2年にとどまらず、生涯にわたっての学習に寄り添う体制を構築する。

【新潟青陵高等学校】

新潟青陵高等学校においては、普通コース、特進コース及び大学・短期大学部併設の強みを生かして設置された高大一貫コース、国際チャレンジコースのそれぞれの特色を生かした教育を推進していくとともに、各コースの特色や魅力を中学校、中学生・保護者に伝えていく。

当面の課題である①大学進学への推進、②不登校生徒の受入れ拡大に伴う全通併修制度の効果的な実施、③部活動の活性化の三つの課題に取り組むとともに、義務教育段階の「学び直し」をはじめ、経営品質向上の手法を活用した面倒見の良い教育の実践に努める。

経営面においては、新潟青陵高等学校経営改善計画に基づいて引き続き経営改善を進める。

【新潟青陵幼稚園】

将来の認定子ども園化をにらみ園舎の幼稚園棟と保育園棟の2期に分けて建設することとし、平成26年度より幼稚園棟の建設を開始しており、7月末には完成・引き渡し予定である。

少子化に加えて周辺地域における就園年齢の幼児数減少による厳しい入園者確保状況への対策として、平成23年度より満3歳児クラス新設や預かり保育室の拡張・預かり時間の延長実施や未就園児対象の「つぼみの広場」事業、新潟日報広報誌「assh」に本学が連載している「子育て応援隊」との連動企画の「子育て講座」開催といったPR活動・子育て支援活動を実施した。平成27年度についても、引き続きこれらの事業を継続し、園児確保に努める。

【収益事業（新潟市老人憩いの家「なぎさ荘」指定管理業務）】

本学水道町キャンパスに隣接する新潟市老人憩いの家「なぎさ荘」について、管理者として3年目（最終年度）を迎える今年度は、現在実施している授業及びボランティアによる学生と利用者の交流、教員による健康維持のためのイベント・介護相談等をさらに充実させるとともに、今後のなぎさ荘の在り方について検討し、医療・福祉系大学の視点から新潟市に提言を行う。

なお、本学園は、学校法人の高い公益性に鑑みて、在学生・保護者等の関係者の理解と協力を得るためにも、積極的に財務の内容を公開し、或いは、教育研究活動等の状況についても積極的に情報を公開し、説明責任と透明性の確保に努めていることを申し添えます。

I. 法人の概要

1. 建学の精神

日進の学理を応用し、努めて現今の社会に適応すべき実学を教授する。

2. 法人の目的

この法人は、教育基本法及び学校教育法に従い、学校教育を行い、社会の発展に寄与できる有為な人材を育成することを目的とする。

3. 設置する学校・学部・学科等

(平成 27 年 4 月 1 日現在)

設置する学校	開校年月	学部・学科等	摘要
新潟青陵大学	平成 12 年 4 月	大学院 看護学研究科 (平成 26 年 4 月) 臨床心理学研究科 (平成 18 年 4 月)	
		看護福祉心理学部 看護学科 (平成 12 年 4 月) 福祉心理学科 (平成 12 年 4 月)	平成 27 年度より募集停止
		看護学部 看護学科 (平成 27 年 4 月) 福祉心理学部 社会福祉学科 (平成 27 年 4 月) 臨床心理学科 (平成 27 年 4 月)	
新潟青陵大学短期大学部	昭和 40 年 4 月	人間総合学科 (平成 16 年 4 月) 幼児教育学科 (昭和 43 年 4 月)	
新潟青陵高等学校	昭和 23 年 4 月	全日制 (普通科) (昭和 35 年 4 月)	
新潟青陵幼稚園	昭和 42 年 4 月		

4. 教育方針・教育目標

【新潟青陵大学大学院・新潟青陵大学・新潟青陵大学短期大学部】

本学では、“教育方針・教育目標”を設定して、「本学が目指す学生の姿」「本学が目指す教職員の姿」並びに本学の設置母体である新潟青陵学園の「本学園が目指す学園の姿」を以下のように提示している。

—— 本学の教育方針・教育目標 ——

一 本学が目指す学生の姿

- 1 学生は、尊敬されるに足る人間として自ら恃(たの)むところを確かにするとともに、自己の能力の実現に努力を惜しまない。

- (ア) 自他の生命に対する畏敬の念を持ち、お互いに生かされ、助けあっていることに感謝し、広い視野と慈しみの心を持って人間及び社会の本質を理解できる。
 - (イ) 様々なものに感動する心を持ち、それを言葉や音楽、絵画、身体などを通じて創造的に表現できる。
 - (ウ) 周囲の現実を把握し、社会にあっては上司、同僚、家族、学内にあっては教職員、友人などと認識を共有し、かつ自己の意見を発表してこれを理解させることができる。
- 2 学生は、社会人として必要な基本的教養と礼儀を身に付けている。
- (ア) 隣人に対して、笑顔で気持ちよく挨拶することができる。
 - (イ) 相手の立場を尊重し、意見に耳を傾け、時間や約束が守れる。
 - (ウ) 自己責任の原則を理解し、自分の態度や習慣、身だしなみを客観的に評価できる。
 - (エ) 弱者を助けるためや、住みよい環境整備のために自らの犠牲をいとわないなど、公共の意義を理解している。
 - (オ) 生涯にわたって継続して培う意義がある趣味を持っている。
- 3 学生は、新入社会人として必要な知識、技能を身に付けている。
- (ア) 専門職としての見識と能力を保持し（必要な検定や資格を取得する。）、さらにその向上に努めている。
 - (イ) 国内外の政治、経済、社会事情について、新聞などにより、周囲の会話に参加できる程度の一般常識がある。
 - (ウ) 人前で3分間程度のスピーチが原稿無しでできる。
 - (エ) 読解、計算などの基本的能力に自信を持ち、少なくとも一つ以上の外国語について日常基礎会話ができる。
 - (オ) 専門の業務に必要なコンピュータによる情報処理能力を身に付ける。

二 本学が目指す教職員の姿

- 1 教職員は、その目的意識（志）、言動、姿勢をもって、学生に感動を伝えることを最大の価値とし、学生から敬愛され、評価される存在である。
- (ア) 学生の人格と立場を尊重し、学業遂行、授業理解支援のために最善の努力を惜しまない。
 - (イ) 授業内外の指導、事務の応接などを通じて、人格的な感化を及ぼす存在である。
 - (ウ) 学生の態度や習慣、身だしなみを指導するにあたって、率先してその範を示す存在である。
- 2 教職員は、地域に貢献し、評価される本学の、価値ある不可欠の構成員である。
- (ア) 本学が目指す姿を自らのものとし、その達成に全力を尽くしている。
 - (イ) 自らの属する学部、学科、部課その他のグループ全体の向上、発展のために創意、工夫と献身的努力を惜しまない。
 - (ウ) 本学において、上司、同僚及び部下から敬愛される存在である。
 - (エ) 地域社会において、よき隣人であると共に、本学を代表して尊敬される存在である。
- 3 本学教職員は、その研究分野又は担当する事務の分野において、本学内外から評価され、尊敬される存在である。

三 本学園が目指す学園の姿

- 1 本学園は、上記の項目に掲げた資質を備えた学生の育成に全力を尽くすとともに、地域の社会人に開かれた存在である。

- (ア) 理事会を中心とするリーダーシップの発揮と教授会、職員会議などによる教職員の意見申し出との調和が図られている。
 - (イ) 保護者、卒業生代表、地域、職域代表などからの意見を積極的に吸い上げ、地域に密着する教育目標の設定など学校運営の重要事項に反映している。
 - (ウ) 科目履修など、社会人教育の充実が図られている。
 - (エ) 公開講座、図書館利用など市民の便宜が図られている。
 - (オ) 周辺、近隣地域との結びつきに支えられている。
- 2 本学園は、学生及び地域社会を顧客とし、顧客満足を徹底している。
- (ア) 専門的、目的的教育に関し、地元企業の発展の方向に即している。
 - (イ) 就職活動支援その他学生の面倒見の良いことで知られている。
 - (ウ) 学生の専門的な資格又は検定の取得支援の対策が充分である。
- 3 本学園は、教職員の十分な満足を得ている。
- (ア) 本学園が顧客満足の成果を収め、教職員の創意工夫が活かされているなど、教職員に自己実現の満足感がある。
 - (イ) 本学園が内外の環境変化に対応して発展する意欲と能力を持ち、地域が誇りとし得る学園を目指すなど学園の将来に不安がない。
 - (ウ) 環境問題など今日的な関心事に率先して対応する積極性がある。
 - (エ) 学園の情報は充分に開示され、学園内の意思の疎通に支障がない。
 - (オ) 教職員は、能力とその成果によって酬いられ、かつその待遇は、県内類似の職種に比して劣るところがない。
 - (カ) 男女共同参画社会実現などの勤務環境が保証され、阻害要因是正の為の苦情処理制度が整備されている。

—— 養成しようとする人材像及び教育目標 ——

【新潟青陵大学大学院看護学研究科】

看護学研究科は、看護学を実践の科学として発展させるために、研究フィールドを看護領域の現場に置き、実践に活かせる教育研究を推進できる高度専門職業人の育成を目指している。高度専門職業人は、エビデンスに基づく知見・知識を活用した遂行能力を培い、看護の問題解決のための科学的思考力と研究能力を高め、看護学を開発・推進していくことが期待されている。

■教育目的

1. 高度な専門的知識と技術をもった教育研究者の育成
2. 学際的かつ国際的な感性をもった指導者の育成

■ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

1. 教育・研究的視点を持ち、生涯学習ができる高度な専門能力をもつ
2. 常に新しい看護を創造する能力をもつ
3. 多様な価値観を理解し、総合的な判断力をもつ

■カリキュラム・ポリシー（教育課程編成方針）

1. 教育研究者としての幅広い学識の涵養を図り、基礎能力を学修する
2. 科学的根拠に基づいた論理的思考を学修する
3. 専門領域の専門応用能力を培い、教育、研究、実践能力を高める

4. グローバルな視点から看護領域の教育研究を向上させる

■アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）

1. 大学院で自分が何をしたいかを明確に自覚し、学習意欲の高い人
2. 豊かな人間性と高い探究心を持って看護学分野の向上に寄与する意思を有する人
3. 教育研究者としての自立性を志向し、生涯に渡って研鑽し続ける意欲を有する人
4. 地域社会や国際社会に貢献する意志と責任感を有する人

【新潟青陵大学大学院臨床心理学研究科】

■教育目標

1. 高度専門職業人として臨床心理士を養成する。
2. 多様な心理臨床領域に貢献できる人材を育成するため、個々人が自身の創造性を働かせ、臨床心理学研究と臨床実践に意欲的に取り組む専門家としての姿勢を育む。
3. 地域における援助活動や文化的活動に携わり、その発展に寄与することのできる高度な社会性と豊かな人間性を兼ね備えた人材育成を目指す。

■教育方針

1. 各授業科目において個々の大学院生の実体験に基づいて学ぶ講義・実習・演習を重視し、単なる知識の提供ではない身につく実践教育と実践的研究指導を行う。
2. 地域との連携を重視し、他職種・他領域との協働や研究成果の地域社会への還元を教育に取り入れるカリキュラムを提供する。
3. 教員が臨床実践や臨床研究に精力的に携わり、常に教育内容の質的向上をめざすとともに、自ら技能向上をはかる姿勢を示すことを心がける。

■ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

1. 高度専門的職業人（「こころの専門家」）として自律的に（自ら考え実践することを通して）地域と社会に貢献できる。
2. 大学院で修得した専門性をさらに発展させ、臨床実践の中から研究課題を見いだして取り組める。
3. 臨床心理学および関連領域について高度な知識と技能および倫理観を修得し、臨床実践において相談者の人格を尊重した援助関係を基盤として利益を提供できる。
4. 臨床心理学の専門性を生かしながら柔軟で多角的視点をそなえている。

■カリキュラム・ポリシー（教育課程編成方針）

1. 学校臨床、病院臨床、地域援助などに貢献できる臨床心理士の育成をめざして、臨床心理学に関連する理論と実習関連科目のバランスのとれたカリキュラムとする。
2. 地域の関連機関での実践のために、学外の臨床心理士や関連領域の専門家との交流を取り入れた講義と実習科目を提供する。
3. これまでの学習成果をまとめ、研究を実施するのに必要な能力を育成する体系的なカリキュラムを提供する。

■アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）

1. 心理学、臨床心理学に関する基礎的知識と臨床実践、研究を行うのに必要な学力、および人間理解のための教養を有している。
2. 自発的に課題を見出して学習に取り組み、深めることができる。
3. 人間について幅広く関心を持ち、尊重して接することができるよう成長し、人格の向

上をはかりたい。

4. 臨床心理学の高度な知識、技能をもちいて対人的な援助の実践、研究、発展に寄与したい。

【新潟青陵大学看護学部看護学科】

■教育目的

「生命の尊厳・人間尊重」の理念を基盤とする高い倫理性と豊かな人間性を培い、看護の専門的知識と技術を教授することにより、看護専門職として地域・国際社会に貢献することのできる人材を育成する。

■教育目標

1. 人間・生命の尊厳を守る意識を培い、自己の資質の向上に努める能力を養う。
2. 他者を尊重し、自己をも尊重する建設的な人間関係を形成する能力を養う。
3. 看護に必要な知識・技術を学習することによって、よりよい看護実践ができる基礎的能力を養う。
4. 看護の諸現象について、論理的な思考のもとに、適切な情報の収集、科学的な分析、倫理的な判断を用いて、有効な対応を考察できる能力を養う。
5. 専門的知識・技術を用いて、科学的な根拠に基づく安全・安楽な援助を提供できる能力を養う。
6. 社会における看護が担うべき役割を認識し、保健医療福祉領域の専門職及び地域の人々との協同・連携のもとに、看護の発展に寄与する能力を養う。
7. 国際的な視野をもち、創造的な思考を深め、専門職業人として社会に貢献できる能力を養う。

■ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）

- 高い倫理性と豊かな人間性を身につけている
- 専門的知識と技術を修得し、健康課題に対応する実践的能力を身につけている
- 多くの関連領域と連携・協働できる実践的能力を身につけている

■カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）

- 深い人間理解による看護ができる。
- 科学的根拠に基づく看護ができる。
- 学際的視野に基づく看護ができる。
- 地域・国際社会に貢献しうる看護ができる。
- 課題探求と創造性のある看護ができる。

■アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）

- 生命を尊重し、他者と自分を大切に思う心のある人
- 将来の方向を自覚し、学習意欲の高い人
- 協調性と高いコミュニケーション能力を有する人

【新潟青陵大学福祉心理学部社会福祉学科】

■福祉心理学部の教育目的

「生命尊厳・人間尊重」の理念に基づき、人々の生活の質の向上を図るため、社会福祉学・心理学・社会学等の専門知識・技術の応用力と豊かな感性、国際感覚を持ち合わせた専門家を養成する。

■社会福祉学科の教育目標

社会福祉学科では、ソーシャルワークコース、福祉ケアコース、子ども発達サポートコースの3コースを擁し、地域の福祉に貢献する社会福祉専門職の養成を行う。この目的を達成するため、以下の教育目標を掲げる。

- 生命尊厳・人間尊重の理念に基づき、ケアのこころ（自らケアができ、ケアされる側の気持ちを理解できるこころ）を持った人材を養成する。
- 広範かつ多面的な全人的人間理解ができる人材を養成する。
- 個々の状況に応じた適切な対人援助の知識と技術を身につけている人材を養成する
- 地域社会、国際社会と協働・連携する基本的な能力を身につけている人材を養成する。

■養成する人材像とディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）

〈養成する人材像〉

超高齢社会の到来及びノーマライゼーション理念の浸透により、多様な人々を排除することなく受け入れることの出来る福祉社会実現に向けたニーズは日々高まっている。こうした社会の要請に対応して、社会福祉学科では、広範な専門性と豊かな人間性を備え、地域社会・国際社会で未来への探究心をもって活躍することの出来る人材を養成する。具体的には、ア. 社会福祉領域で、専門的な知識と技能を用いることの出来るスペシャリストとして、地域社会における人々の生活を支援できる人材を養成する。

イ. 「ひと」の生活を支える広範かつ専門的な視点を持つ人材の養成

ウ. 多様な人々と交流する能力を持つ人材を養成する。

エ. 少人数学習や演習授業等において教員や仲間と触れ合う中で、自尊感情を高め、他者への信頼感を深めながら、人間に対する温かい視点をもつ人材を養成する。

オ. 各種の学外実習や専門演習を通じて、自ら課題を見出し、深め、主張を構築し、発信するための、知識・技能と態度を養成する。

〈ディプロマ・ポリシー〉

- 高い倫理性と豊かな人間性を身につけている。
- 社会福祉領域のスペシャリストとして、地域社会における人々の生活を支援できる広範かつ専門的な視点と実践的能力を身につけている。
- 多様な人々と交流し、課題を解決する能力を身につけている。

■カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）

- 多様な科目群を包括的に学ぶことによって、人間を多角的にとらえことができ、豊かな人間性を育むことができる。社会福祉学と心理学分野の多様な科目群を包括的に学びとり、豊かな人間理解ができる。
- 社会福祉学を体系的に学ぶとともに、将来のキャリアプランと対応させることによって、社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士、保育士の資格等を取得し、多様な分野でソーシャルワークを実践することができる。
- 学内外での学びを有機的に結びつけ、社会福祉の課題として探究することができる。

■アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）

- 豊かな人間性と倫理性を備えたいと考えている人。
- 専門職としての知識・技術を修得し、社会に貢献したいと考えている人。
- 人とかかわることに興味があり、対人援助や支援に取り組んでみたいと考えている人。

【新潟青陵大学福祉心理学部臨床心理学科】

■臨床心理学科の教育目標

社会福祉学と心理学の基礎を学ぶとともに、臨床心理学を中心に広い範囲の心理学を体系的に学ぶことで、多面的に人間を捉える力と社会に還元できるような調査研究の技能と調整能力を修得させる。具体的には、

- ア. 体系的に心理学を学ぶことにより、人の心理を多面的に、無意識の世界も含めて、多層的に理解する力、また、様々な臨床実践に触れながら、調査研究の技能を身につけることを目指す。
- イ. 演習科目やグループワークを通し、客観的に人間を捉える方法を修得し、行動の背景にある対人関係、心理的危機について深く理解し、社会システムと個人を適切に把握して調整する力を養うことを目指す。
- ウ. 社会福祉関連の科目を臨床心理学関連の科目とあわせて修得することにより、幅広い知見を持ち、学校や施設を含む地域の様々な現場で個人のニーズを見極め対処する能力を養うことを目指す。

■養成する人材像とディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）

〈養成する人材像〉

競争社会の中における人間関係の複雑さや困難さから心身の不調を訴える人の増加、子育ての困難さからの虐待の増加、不登校、ひきこもりなどの現象は人の心の問題を抜きにしては、対処することはできない。それらについて臨床の専門家として、臨床心理学の視点を持ちながら活躍できる人材を養成する。具体的には、

- ア. 心理の専門職につくための基礎を学修し、大学院へ進学し臨床心理士として複雑化する社会のニーズに応える人を養成する。
- イ. 複雑・多様化する社会システムや組織の中で心理学的に人を見る目を持ち、人間関係を調整することのできる人を養成する
- ウ. 心理学的な専門的技能の他に、社会福祉の知見を備え、地域に還元できる力を持つ人の養成。自分についてよく知り、豊かに育てると同時に、社会に貢献できるよき市民を養成する。

〈ディプロマ・ポリシー〉

- 心理学とその方法論の基礎を身につけ、それを用いて基本的な調査研究ができる能力を身につけている。
- 行動の背景にある無意識の世界、心理的危機、対人関係について深く理解する力を身につけている。
- 臨床心理学と関連領域の視点から社会の問題と個人の問題を調整する力を身につけている。
- 科学的思考と観察力を身につけたい人。

■カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）

- 人間を多角的にとらえ、基本的な調査研究ができる技能を修得できるよう、心理学とその方法論についての広範囲で体系的な学びができる。
- 行動の背景にある無意識の世界、心理的危機、対人関係について深く理解できるよう、臨床心理学と関連領域についてしだいに深化するような学びができる。
- 社会の問題と個人の問題を調整する技能を修得できるよう、体験的、実践的な学びができる。

■アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）

- 人間について関心をもち、人間を理解しようとする人。
- 心理学的な知識と技能を生かした対人支援に関心のある人。

【新潟青陵大学短期大学部人間総合学科】

■教育目的

人生に目的（志）を持ち、それを実現するに十分な表現能力や豊かな感性とライフサイクルに対応して地域社会に貢献できる知識や技術（多様な資格と検定）を身につけた人材を養成する。

人間総合学科人間総合コース及び介護福祉コースは、それぞれのコースの特色に基づき、次の3つのポリシーをもとに、その実現に努める。

■人間総合コース

◇ ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）

- ① 人を思いやり、人の役に立ちたいという「青陵マインド」を身につけている。
- ② 職業人として社会で求められる「就業力」を備えている。
- ③ 多様な分野での活躍が可能な向上心、知的応用力、協調性がある。

◇ カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）

人間総合コースの教育課程は以下の3つの柱からなっている。

① 「就業力」を強化する授業

- ・ビジネスシーンに必要なマナー、文書作成能力、コミュニケーション力を身につけることができる。
- ・社会人としての教養や資質を養う授業を通じて、働く意味を考え、仕事観を確立することが可能となる。

② 一般的なビジネスの素養を身につける授業と資格取得

- ・あらゆるビジネスのベースとなる知識と技能を修得し、基本的な仕事力を養成する。
- ・オフィスワーク、ストアワーク、秘書、情報処理などのビジネス系の資格を広く取得することができる。

③ 専門分野の知識、技能、素養を伸ばす履修コース

- ・「ビジネス・会計実務」「ファッション・インテリア」「フードビジネス」「観光・ブライダル」「英語コミュニケーション・編入学」の履修コースがあり、各自が興味のある分野を追求することができる。
- ・各履修コースの特色ある資格を多く取得することが可能で、卒業後は幅広い業種や職種で活躍できる人材を育てる。
- ・文化、芸術、福祉、子育てなど、ライフスタイルの各段階に応じた教養を身につけ、生活をより豊かなものにする。
- ・希望者には進学（4年制大学への3年次編入）に向けたきめ細かな進路指導を行ない、複数の授業を通じて体系的かつ実践的な受験サポートを提供する。

◇ アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）

- ① 目的意識を明確にし、自分の教養を高めようとしている人
- ② 将来の展望を持ち、卒業後の進路をしっかりと考えている人
- ③ 学科のカリキュラムを理解し、積極的に学ぼうとする意欲のある人

- ④ 協調性を重んじ、人と人とのコミュニケーションを大切にする人

■介護福祉コース

◇ アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）

- ① 社会福祉や介護福祉の課題に関心を持ち、専門的な知識や技術の修得に努力を惜しまない人
- ② 高齢者や障がいを持つ人の気持ちを理解し、生命の尊さや人間の尊厳を大切にする人
- ③ 豊かな感性を持ち、積極的に高齢者や障がいを持つ人との交流を大切にし、そこで責任ある行動がとれる人
- ④ 介護福祉分野において幅広い職業人としての研鑽を積み、地域社会への貢献を目指す人

◇ カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）

- ① 介護福祉士養成課程における、「人間と社会」、「介護」、「こころとからだのしくみ」等の分野ごとの介護の専門的知識・技術を学ぶ。
- ② 人間をその人のおかれている環境の中で理解できる能力を身につけ、相手の立場に立って関わることのできる心豊かな人間を育成する。
- ③ 福祉マインドを持った介護職のリーダーを目指す人材を育成する。

◇ ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）

- ① 総合的な学力と豊かな人間性を養い、介護福祉士としての知識と技能を兼ねそなえたスペシャリストとして働ける力を身につけている。
- ② 福祉現場で必要とされる円滑なコミュニケーション能力を身につけ、現場では多職種協働によるチームアプローチが必要であることが理解できる。
- ③ 卒業まで学習に励むことによって、問題解決能力を養い、どのような事態に遭遇しても的確な対応ができる能力を身につけている。

【新潟青陵大学短期大学部幼児教育学科】

幼児教育学科の教育上の目的は、幼児教育分野における実践的教育を通して、万物に対する深い愛と広い視野、豊かな感性をもって保育を創造することができる専門家を養成することにある。

幼児教育学科においても、次の3つのポリシーをもとに、学科が目指すより質の高い保育者養成に努める。

■ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）

- ① 保育者としての知識と技能、問題解決能力を身につけている。
- ② 社会から要請される保育を主体的かつ創造的に実践することができる。
- ③ 人権尊重の精神と礼節を重んじ、豊かな人間性を備えている。

■カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）

- ① 保育にかかわる理論とともに実技・実習を重視し、保育者としての実践力を養う。
 - ・教職実践演習室での活動を核に、実習に関するサポートをきめ細かく行い、理論と実践の有機的な統合ができるよう配慮する。
- ② 共感する心とそれを表現する力を養い、保育者としての豊かな感性と創造性を育む。
 - ・五領域（音・図・体・環境・人間関係）それぞれの表現指導法を設置し、充実を図る。
- ③ 人権尊重の精神を学ぶとともに、社会人としての礼節を身につける。
 - ・さまざまな保育の現場に対応するために、人権尊重の保育と基本的な礼節を重視し、演習や実習指導に取り組む。

■アドミッション・ポリシー(入学者受入方針)

- ① 保育者をめざす高い志と、本学での就学に必要な基礎学力をもつ人
- ② 積極的に学ぶ意欲と、臨機応変に課題を処理する柔軟性をもつ人
- ③ 明朗活発で協調性があり、対人関係を円滑に築くことができる人

【新潟青陵高等学校】

高等学校では、「建学の精神（校訓）」、「教育目標」、「指導方針」、及びこれらに基づいて設定した「各学年・分掌の重点目標・具体的活動」をもとに教育活動に当たる。

■建学の精神（校訓）

「至誠」

■教育目標

- ① 意欲的な学習態度を身につけ、個性豊かな創造力を養う。
- ② 明るい学校生活をとおして友情と人間愛を養う。
- ③ 自主・自律の精神を養い、勤労意欲を高める。
- ④ 心身ともに健康な人間を育成する。

■指導方針

(1) 生活3原則（あじみ3原則）

- ① あいさつ
- ② 時間厳守
- ③ 身だしなみ

(2) 学習3原則

- ① 生活を正す
- ② 目標を持つ
- ③ 継続する

(3) 今年度の重点目標

- ① 高校生としての生活習慣、学習習慣を確立するよう、各学年の指導を徹底する。
- ② 生徒・保護者の希望する進路を実現するため、具体的かつ実践的な指導を行う。
- ③ 部活動、ボランティア活動、海外留学等の自主的活動を奨励し、チャレンジ精神、達成感を高めるよう指導する。

■各学年・分掌の重点目標・具体的活動

(細部にわたるため省略)

【新潟青陵幼稚園】

本園は、シュタイナー教育を取り入れ、意志・意欲・感性・想像力・創造性等を目指している。また、幼稚園教育要領「遊びを通しての指導を中心として、ねらいが総合的に達成されるようにすること」を踏まえて、“遊び”を中心とした指導を行っている。

■教育目標

- 1 「友だちとなかよく遊ぶ子ども」
- 2 「感性豊かな子ども」
- 3 「良く考え意欲を持って行動する子ども」

以上の“教育方針・教育目標”の下に、本園では以下のポリシーを提示している。

一、本園が目指す幼児の姿

1 主体的に意欲をもって物事に取り組む子ども

幼児が自らの想像力により遊びを作り出していくことができるように、幼児の興味関心を捉えた環境を設定し、自ら意欲をもってじっくりと取り組むことができる場、時間的空間を確保する。

2 友だちを思いやり一緒にいることを楽しみ、よく考え、よく遊ぶ子ども

良質な自然素材を使った環境を構成して、多様な経験を重ねることができるようにし、遊びを通して人間関係を学ぶことができるようにする。

園内および周辺の自然に触れる機会を多く設け、幼児のセンス・オブ・ワンダー（神秘さや不思議さに目を見張る感性）を育む。

ゆったりとした生活リズムを作り、幼児が他児と深い心のつながりを持つことができるようにする、子どもがお互いに、自分の気持ちを表現し、相手の気持ちを考え、心の交流をすることができる豊かな人間関係を作ることができるよう力を育む。

二、本園が目指す教諭の姿

1 幼児が安心して信頼する存在であり、模倣の対象として存在する。

2 幼児一人ひとりの人格を尊重し、深い愛を持って接する。

3 幼児がどのような状態であっても、幼児の気持ちに寄り添い、幼児の思いを理解する。

5. 学校法人の沿革

明治33年	4月	下田歌子女史の帝国婦人協会新潟支会により、修業年限3か年の学校「裁縫伝習所」として呱呱の声をあぐ
	7月	校名を「新潟女子工芸」と改称
43年	6月	西堀通り2番町に校舎新築
昭和13年	1月	財団法人組織に変更
19年	4月	校名を財団法人新潟高等実践女学校と改称
21年	4月	校名を財団法人新潟女子工芸学校と改称
23年	4月	学制改革により校名を新潟女子工芸高等学校と改称、併設中学校設置
26年	3月	私立学校法により学校法人組織に変更
32年	10月	水道町1丁目に校舎新築移転
35年	4月	高等学校に普通科増設
36年	4月	高等学校の上に修業年限2か年の専攻科（短大の前身）を設置
37年	4月	高等学校に商業科増設
40年	4月	法人名を新潟青陵学園と改称、新潟青陵高等学校、新潟青陵中学校に校名を改称、新潟青陵女子短期大学を開学（被服科）
42年	4月	新潟青陵幼稚園を設置
43年	4月	短期大学に幼児教育科増設
45年	4月	新潟青陵学園寄宿舎（ひめまつ荘）新築
46年	3月	高等学校鉄筋4階建校舎増築竣工
47年	4月	高等学校鉄筋校舎増築、第2体育館新築竣工 短期大学に専攻科（服飾美術専攻、幼児教育専攻）増設
48年	1月	学園用地44,000㎡を購入
50年	4月	短期大学被服科を服飾美術科に改称
57年	4月	新潟青陵中学校廃止
61年	3月	高等学校鉄筋4階建校舎（管理棟）新築

62年	3月	高等学校鉄筋2層構造4階建体育館新築	
平成3年	4月	新潟青陵学園寄宿舎（ひめまつ荘）を廃止し、短期大学教育施設「3号館」に用途を変更	
	4年	4月	短期大学服飾美術科を生活文化学科に、幼児教育科を幼児教育学科に改称、新潟青陵幼稚園を新潟青陵女子短期大学附属幼稚園に改称
	5年	4月	短期大学専攻科廃止
	6年	4月	高等学校被服科を生活服飾科に改称
	8年	4月	短期大学に福祉心理学科、国際文化学科増設
12年	4月	新潟青陵大学（看護福祉心理学部看護学科、福祉心理学科）開学	
12年	10月	新潟青陵学園（新潟青陵高等学校）創立100周年記念式典挙行	
13年	5月	短期大学福祉心理学科廃止	
15年	5月	高等学校商業科廃止	
16年	4月	短期大学の名称を新潟青陵大学短期大学部に改称、人間総合学科増設、幼稚園の名称を新潟青陵幼稚園に改称	
	10月	大学キャンパスに校舎「5号館」新築	
17年	4月	新潟青陵大学福祉心理学科にソーシャルワーク、福祉ケア、子ども発達サポート、心理カウンセリングのコース制導入 短期大学部人間総合学科に人間総合、介護福祉のコース制導入 短期大学部生活文化学科、国際文化学科廃止	
18年	4月	新潟青陵大学大学院臨床心理学研究科臨床心理学専攻（修士課程）開設	
19年	3月	財団法人短期大学基準協会による平成18年度第三者評価の適格認定を受ける	
19年	5月	大学キャンパス隣接地1,326.16㎡を購入	
20年	3月	財団法人大学基準協会による平成19年度大学評価結果ならびに認証評価結果において大学基準に適合していると認定される	
	9月	大学キャンパスに校舎「6号館」新築	
	10月	新潟青陵大学認定看護師研修センター開設	
22年	4月	新潟青陵大学創立10周年記念式典挙行	
22年	10月	新潟青陵学園（新潟青陵高等学校）創立110周年記念式典挙行	
24年	5月	新潟青陵高等学校生活服飾科廃止	
26年	3月	新潟青陵大学認定看護師研修センター閉校	
	4月	新潟青陵大学大学院看護学研究科開設	
27年	4月	新潟青陵大学看護学部看護学科、福祉心理学部社会福祉学科及び臨床心理学科開設	

6. 学校・学部・学科等の学生数の状況

(平成27年5月1日現在)

(単位：人)

1) 平成27年度当初予算策定時における学生数の見込み

【新潟青陵大学大学院】

学 科	入学定員	1年	2年			計	収容定員	充足率
臨床心理学研究科	10	10	9	-	-	19	20	0.95
看護学研究科	6	6	6	-	-	12	12	1.00

【新潟青陵大学】

学 科	入学定員	1年	2年	3年	4年	計	収容定員	充足率
看護学部	85	85	90	89	87	351	335	1.05
福祉心理学部	110	110	130	124	128	515	460	1.12
	3年次 10			10	13			
計	210	195	220	223	228	866	800	1.08

※平成27年度より、看護福祉心理学部を看護学部と福祉心理学部に分離改組。

2年次以上は、看護福祉心理学部看護学科及び福祉心理学科の人数。

【新潟青陵大学短期大学部】

学 科	入学定員	1年	2年			計	収容定員	充足率
人間総合学科	200	227	-	-	427	400	1.07	200
幼児教育学科	130	130	-	-	260	260	1.00	130
計	330	357	-	-	687	660	1.04	330

【新潟青陵高等学校】

学 科	入学定員	1年	2年	3年		計	収容定員	充足率
普通科	360	324	288	292	-	940	1080	0.87
計	360	324	288	292	-	940	1080	0.87

【新潟青陵幼稚園】

学 科	入学定員	3才児	4才児	5才児		計	収容定員	充足率
計	46	50	55	54	-	159	150	1.06

※3才児は、満3才児クラスを含む。

2) 参考：25年度（募集年度）および26年度（入学年度）の状況

【新潟青陵大学大学院】

学 科	入学定員	受験者数	合格者数	入学者数	入定充足率	収容定員	現員	収容充足率
臨床心理学研究科	10	16	11	10	1.00	20	19	0.95
看護学研究科	6	7	7	6	1.00	6	6	1.00

【新潟青陵大学】

学 科	入学定員	受験者数	合格者数	入学者数	入定充足率	収容定員	現員	収容充足率
看 護 学 科	85	439	170	90	1.06	330	349	1.06
福 祉 心 理 学 科	110	472	252	129	1.17	460	528	1.15
	3年次 10	15	13	13	1.30			
計	205	926	435	232	1.13	790	877	1.11

【新潟青陵大学短期大学部】

学 科	入学定員	受験者数	合格者数	入学者数	入定充足率	収容定員	現員	収容充足率
人間総合学科	200	282	269	230	1.15	400	486	1.22
幼児教育学科	130	317	149	130	1.00	260	258	0.99
計	330	599	418	360	1.09	660	744	1.13

【新潟青陵高等学校】

学 科	入学定員	受験者数	合格者数	入学者数	入定充足率	収容定員	現員	収容充足率
普 通 科	360	835	819	301	0.84	1080	887	0.82
計	360	835	819	301	0.84	1080	887	0.82

【新潟青陵幼稚園】

3才児			4才児			5才児			収容定員	現員	収容充足率
募集数	応募数	入園数	募集数	応募数	入園数	募集数	応募数	入園数			
46	61	54	若干名	6	6	若干名	4	4	150	157	1.05

※現員は、平成26年5月1日現在

7. 役員概要

(平成 27 年 4 月 1 日現在/予定)

定員数 理事 10 人～14 人、監事 2～3 人

現員数 理事 13 人、監事 3 人

区分	氏名	常勤・非常勤の別	就任年月日	重任年月日	摘要
理事長	関 昭一	常 勤	H5. 4. 1	H26. 4. 1	短期大学部学長
常務理事	本間榮三郎	常 勤	H22. 4. 1	H26. 4. 1	理事会選任
理 事	石本隆太郎	非常勤	H14. 4. 1	H26. 4. 1	評議員会選任
理 事	高橋 登	非常勤	H23. 4. 1	H27. 4. 1	評議員会選任
理 事	大川 賢一	非常勤	H19. 4. 1	H27. 4. 1	理事会選任
理 事	牧野 庄三	非常勤	H20. 4. 1	H24. 4. 1	理事会選任
理 事	長部 タミ	非常勤	H23. 4. 1	H27. 4. 1	理事会選任
理 事	諫山 正	常 勤	H17. 4. 1	H27. 4. 1	大学学長
理 事	羽田 春喜	常 勤	H27. 4. 1		高等学校長
理 事	鈴木 宏	常 勤	H22. 10. 1	H26. 4. 1	大学副学長・評議員会選任
理 事	五十嵐由利子	常 勤	H25. 4. 1		短期大学部副学長・評議員会選任
理 事	青木 茂則	常 勤	H26. 4. 1		高等学校副校長・評議員会選任
理 事	栗林 克礼	常 勤	H25. 4. 1	H27. 4. 1	法人事務局長・評議員会選任
監 事	大掛 幸子	非常勤	H10. 4. 1	H26. 4. 1	理事長選任
監 事	藤田 普	非常勤	H19. 4. 1	H27. 4. 1	理事長選任
監 事	小柴 昭彦	非常勤	H27. 4. 1		理事長選任

※監事は、理事会において選出した候補者のうちから、評議員会の同意を得て理事長が選任する。

前会計年度の決算承認に係る理事会開催日後の退任役員 坂井熙一、宮沢 稔、赤羽良樹

8. 評議員概要

(平成 27 年 4 月 1 日現在/予定)

定員数 28 人～32 人

現員数 28 人

氏名	就任年月日	重任年月日	選任区分	摘要
眞壁 伍郎	H15. 6. 1	H27. 4. 1	学識経験者(評議員会選出)	
山田 裕一	H3. 7. 31	H27. 4. 1	学識経験者(評議員会選出)	
西村 俊男	H3. 7. 31	H27. 4. 1	学識経験者(評議員会選出)	
小林 悟	H19. 4. 1	H24. 4. 1	学識経験者(評議員会選出)	
飯島 信輔	H22. 4. 1	H26. 4. 1	学識経験者(評議員会選出)	
高橋 登	H19. 4. 1	H27. 4. 1	学識経験者(評議員会選出)	

氏名	就任年月日	重任年月日	選任区分	摘要
宮沢 稔	H27. 4. 1		学識経験者(評議員会選出)	
小川外里子	H7. 4. 1	H27. 4. 1	卒業者(理事会選出)	新潟青陵高等学校
前川 厚子	H11. 9. 1	H27. 4. 1	卒業者(理事会選出)	新潟青陵高等学校
柴野 俊子	H3. 5. 24	H27. 4. 1	卒業者(理事会選出)	新潟青陵大学短期大学部
宇賀村恵子	H4. 5. 25	H24. 4. 1	卒業者(理事会選出)	新潟青陵大学短期大学部
須藤 優	H10. 4. 1	H26. 4. 1	卒業者(理事会選出)	新潟青陵大学短期大学部
白倉 啓子	H25. 4. 1		卒業者(理事会選出)	新潟青陵大学
川名 豊	H27. 4. 1		保護者(理事会選出)	新潟青陵大学
開島 寿哉	H25. 4. 1		保護者(理事会選出)	新潟青陵大学
高野 勝	H27. 4. 1		保護者(理事会選出)	新潟青陵大学短期大学部
下鳥 忍	H26. 4. 1		保護者(理事会選出)	新潟青陵高等学校 PTA 会長
高井美保子	H27. 4. 1		保護者(理事会選出)	新潟青陵高等学校母の会会長
奈良 直美	H27. 4. 1		保護者(理事会選出)	新潟青陵幼稚園父母の会会長
鈴木 宏	H22. 10. 1	H26. 4. 1	教職員(理事会選出)	新潟青陵大学副学長・教授
浅見 直	H27. 4. 1		教職員(理事会選出)	新潟青陵大学看護学部教授・看護学部長
木村 哲夫	H27. 4. 1		教職員(理事会選出)	新潟青陵大学福祉心理学部教授・福祉心理学部長
五十嵐由利子	H24. 4. 1	H25. 4. 1	教職員(理事会選出)	新潟青陵大学短期大学部教授・副学長
須永 一道	H27. 4. 1		教職員(理事会選出)	新潟青陵大学短期大学部教授・人間総合学科長
青野 光子	H27. 4. 1		教職員(理事会選出)	新潟青陵大学短期大学部教授・幼児教育学科長
青木 茂則	H26. 4. 1		教職員(理事会選出)	新潟青陵高等学校副校長
加藤由美子	H14. 4. 1	H26. 4. 1	教職員(理事会選出)	新潟青陵幼稚園園長
栗林 克礼	H23. 4. 1	H27. 4. 1	教職員(理事会選出)	学校法人新潟青陵学園事務局長

9. 当初予算策定時における27年度教職員の見込み（学長・校長・園長を含む）

【新潟青陵大学大学院】

学 科	教授	准教授	助教	講師		助手	計		職員	
	専任	専任	専任	専任	兼任	専任	専任	兼任	専任	兼任
看護学研究科	14	4	3	-	4	-	21	5	-	-
臨床心理学研究科	4	5	-	-	4	1	10	4	-	-
計	18	9	3	-	8	1	31	9	-	-

【新潟青陵大学】

学 科	教授	准教授	助教	講師		助手	計		職員	
	専任	専任	専任	専任	兼任	専任	専任	兼任	専任	兼任
看護学部	13	9	8	1	28	7	38	28	9	2
福祉心理学部	15	16	3	-	38	-	34	38	12	2
計	28	25	11	1	66	7	72	66	21	4

【新潟青陵大学短期大学部】

学 科	教授	准教授	助教	講師		助手	計		職員	
	専任	専任	専任	専任	兼任	専任	専任	兼任	専任	兼任
人間総合学科	9	9	1	-	43	1	20	43	8	2
幼児教育学科	3	7	2	-	23	1	13	23	7	3
計	12	16	3	-	66	2	33	66	15	5

【新潟青陵高等学校】

学 科	教諭	助教諭	講師		助手	計		職員	
	専任	専任	専任	兼任	専任	専任	兼任	専任	兼任
計	49	1	8	25	-	58	25	7	2

【新潟青陵幼稚園】

学 科	教諭	助教諭	講師		助手	計		職員	
	専任	専任	専任	兼任	専任	専任	兼任	専任	兼任
計	6	-	2	4	-	8	4	2	-

II. 事業計画の概要

1. 当該年度の事業(経営)の概要

平成 27 度の学園全体の資金繰りは「繰越支払資金」が示すようにやや増加する見込みである。また、「当年度収支差額(消費収支差額)」は幼稚園及び大学・短期大学部新棟の建設開始により前年度の 7 千 914 万円の赤字から 6 億 7 千 460 万円へと、増大する見込みである。キャンパス再整備も本格化し、慎重な財務運営が求められる。

なお、平成 27 年度は財政事情が厳しさを増すなかでも教育の充実・学校の魅力アップという観点から、本事業計画書の序文に記載した事業の展開を目論むこととした。

【繰越支払資金】

	前年度繰越支払資金	次年度繰越支払資金	差引増減
法人	0 千円	0 千円	0 千円
大学	829,447 千円	897,337 千円	67,890 千円
短大	293,974 千円	358,862 千円	64,887 千円
高校	99,442 千円	161,202 千円	61,760 千円
幼稚園	44,097 千円	100 千円 △	43,997 千円
計	1,266,961 千円	1,417,501 千円	150,540 千円

【当年度収支差額(消費収支差額)】

	前年度末	当年度末	差引増減
大学	47,580 千円	△ 77,770 千円	△ 125,350 千円
短大	86,060 千円	△ 30,510 千円	△ 116,570 千円
高校	△ 56,340 千円	△ 47,850 千円	8,490 千円
幼稚園	△ 156,440 千円	△ 518,470 千円	△ 362,030 千円
計	△ 79,140 千円	△ 674,600 千円	△ 595,460 千円

次に、各部門別の事業(経営)の概要を示す。

【新潟青陵大学】

学生納付金収入は、大学院及び学部学生については、財政健全化のため、入学生を定員で積算することとし、大学院 32 人、看護学科 348 人、福祉心理学部 512 人、計 905 人で積算した。

キャンパス再整備計画として、幼稚園棟の完成に引き続き、現行の 1・2 号館を 1 棟として新規に幼稚園跡地に建設を開始(平成 28 年末完成予定)することとし、平成 27 年度分の建設費として 15 億 300 万円を短期大学部と按分計上した。この原資は、全額私学事業団からの借り入れにて充当する予定(文部科学省耐震改築補助金が獲得できた場合は、同額の借入額が減少)である。また、経済困窮者を対象とした授業料減免措置を継続して行うこととし、大学・短期大学部とも在籍者数の 10%を対象に授業料の 1/2 を奨学金として支給することに加え、成績優秀な学生確保の一環として授業料減免制度と同程度の規模で特待生制度を新設し、初年度として 2 千 681 万円を短期大学部と按分計上した。

一方、人件費支出は昇給及び大学院看護学研究科設置に係る増員等もあり、退職金を除いた金額で、対前年比5千682万円の増額で積算した。

なお、キャンパス再整備のための資金積み増しを企図し、2億円を施設拡充引当特定資産へ大学と按分して計上している。また、低下していた退職給与引当預金率を100%とするため、退職給与引当特定資産を計画的に積み増すこととし、今年度も5千万円を大学と按分して計上している。

上記のことはあるが、キャンパス再整備のための不要不急の設備備品関係の支出を抑制したこと等により、次年度繰越支払資金は8億9千733万円（前年度繰越支払資金は8億2千944万円）に増加、事業活動収支計算（消費収支計算）では当年度収支差額（消費収支差額）は7千777万円の支出超過となる見込みである。

【資金収支】

単位 千円

収入科目	金額	支出科目	金額
帰属収入の計	1,439,340	人件費支出	936,710
（うち、授業料収入	1,220,550）	教育経費・管理経費支出	369,700
（うち、補助金収入	162,760）	借入金等返済・利息支出	19,120
借入金等収入	815,680	施設関係・設備関係支出	876,630
前受金収入	201,180	資産運用支出	149,910
その他の収入	192,110	その他の支出	20,380
		〔予備費〕	5,000
		学校法人経費按分額	17,350
資金収入調整勘定	△ 201,250	資金支出調整勘定	△ 15,630
前年度繰越支払資金	829,447	次年度繰越支払資金	897,337
計	3,276,507	計	3,276,507

【事業活動収支（消費収支）】

収入科目	金額	支出科目	金額
帰属収入の計	1,439,440	人件費	936,710
（うち、授業料収入	1,220,550）	教育経費・管理経費	479,980
（うち、補助金収入	162,760）	（うち、減価償却額	110,280）
		借入金等利息	1,100
		資産処分差額等	14,350
		債務保証損失引当金繰入額	0
		〔予備費〕	3,000
基本金組入額	△ 64,720	学校法人経費按分額	17,350
計	1,374,720	計	1,452,490
		当年度収支差額	△ 77,770
		前年度繰越収支差額	91,259
		翌年度繰越収支差額	13,489

学生の就職環境は、医療系はほぼ順調であるが、一般企業を中心に好転してはいるものの依然として厳しい状況が予想されるため引き続き出口対策を強化する考えである。学生に対しては、一般企業希望者が相当数いるため、3年次の前半から就職ガイダンスや就職対策講座を実施し、11月から1月にかけて個別面談を行う。採用解禁時期の先送りなど、企業側採用スケジュールが大幅に変化しているため、就職活動が本格化する4年次春先には再度キャリア支援課が学生に対する個別面談を行い、活動状況の把握と実際の活動での問題点・疑問点などについてきめ細かい指導を行っていく。個別面談や就職試験対策などは必要な時期に全学生を対象に行い就職活動に対する適切な指導を行う。

また、平成27年度は、学生支援GPで構築した学生支援体制、支援メニューなどの成果を引き続き推進するとともに、キャリアセンター（キャリア支援課）としての情報の集約化・業務効率化等を更に進化させることで、学生支援体制の強化向上並びに安定化を図り、学生全員が希望する職場に就職できるよう支援する。

さらに、早い段階でのキャリア教育の必要性を重視し、初年次の段階から自己の人生と職業を見据え、自分の適性や潜在能力に開眼し、自らを方向付けていけるような指導を継続強化して行くことに加え、教育課程におけるキャリア関係科目の充実強化を図る。

最後に国家試験対策では、教員による活動を支援し、国家試験合格率を高めるために努力する。

なお、参考までに平成26年度の職業紹介状況が未確定のため平成25年度実績を次に示すこととした。

－ 平成25年度事業報告書の再掲 －

【職業紹介状況】

項目	看護学科			福祉心理学科			計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
就職希望者数	8	75	83	20	101	121	28	176	204
就職決定者数	8	75	83	20	99	119	28	174	202
就職率 (%)	100.0	100.0	100.0	100.0	98.0	98.3	100.0	98.9	99.0

【看護学科】

	看護師	保健師	助産師	養護教諭	その他	計
県内	48	3	9	6	-	66
県外	13	0	4	0	-	17
計	61	3	13	6	-	83

【福祉心理学科】

	生活相談員	生活支援員	介護職	PSW	MSW	保育士	その他福祉職	一般企業等	計
県内	13	21	25	3	1	13	9	24	109
県外	0	1	0	4	0	0	1	4	10
計	13	22	25	7	1	13	10	28	119

【新潟青陵大学短期大学部】

学生納付金収入は、財政健全化のため、入学生を定員で積算することとし、人間総合学科 428 人、幼児教育学科 260 人、計 688 人で積算した。

キャンパス再整備計画として、幼稚園棟の完成に引き続き、現行の 1・2 号館を 1 棟として新規に幼稚園跡地に建設を開始（平成 28 年末完成予定）することとし、平成 27 年度分の建設費として 15 億 300 万円を大学と按分計上した。この原資は、全額私学事業団からの借り入れにて充当する予定（文部科学省耐震改築補助金が獲得できた場合は、同額の借入額が減少）である。また、経済困窮者を対象とした授業料減免措置を継続して行うこととし、大学・短期大学部とも在籍者数の 10% を対象に授業料の 1/2 を奨学金として支給することに加え、成績優秀な学生確保の一環として授業料減免制度と同程度の規模で特待生制度を新設し、初年度として 2 千 681 万円を大学と按分計上した。

一方、人件費支出は昇給等の増額もあり 862 万円の増額で積算した。

なお、キャンパス再整備のための資金積み増しを企図し、2 億円を施設拡充引当特定資産へ大学と按分して計上している。また、低下していた退職給与引当預金率を 100% とするため、退職給与引当特定資産を計画的に積み増すこととし、今年度も 5 千万円を大学と按分して計上している。

上記のことはあるが、キャンパス再整備のための不要不急の設備備品関係の支出を抑制したこと等により、次年度繰越支払資金は、3 億 5 千 886 万円（前年度繰越支払資金は 2 億 9 千 397 万円）と増加、事業活動収支計算（消費収支計算）では当年度収支差額（消費収支差額）は 3 千 51 万円の支出超過となる見込みである。

【資金収支】

単位 千円

収入科目	金額	支出科目	金額
帰属収入の計	814,870	人件費支出	484,560
（うち、授業料収入	694,710）	教育経費・管理経費支出	227,400
（うち、補助金収入	86,840）	借入金等返済・利息支出	16,100
借入金等収入	687,330	施設関係・設備関係支出	730,580
前受金収入	236,300	資産運用支出	116,490
その他の収入	156,250	その他の支出	12,410
		〔予備費〕	4,100
		学校法人経費按分額	9,300
資金収入調整勘定	△ 237,900	資金支出調整勘定	△ 9,720
内部取引勘定	10,000	内部取引勘定	10,742
前年度繰越支払資金	293,974	次年度繰越支払資金	358,862
計	1,960,824	計	1,960,824

【事業活動収支（消費収支）】

収入科目	金額	支出科目	金額
帰属収入の計	815,220	人件費	484,560
（うち、授業料収入	694,710）	教育経費・管理経費	288,810
（うち、補助金収入	86,840）	（うち、減価償却額	61,410）
		借入金等利息	920
		資産処分差額等	29,810
		債務保証損失引当金繰入額	0
		〔予備費〕	3,360
基本金組入額	△ 28,970	学校法人経費按分額	9,300
計	786,250	計	816,760
		当年度収支差額	△ 30,510
		前年度繰越収支差額	736,601
		翌年度繰越収支差額	706,091

学生の出口対策にあつては、雇用状況は改善しつつあるものの、採用解禁時期の先送りにより、企業側採用スケジュールが大幅に変化しての短期集中型になり、更なる選別の激化が予想され、景気の動向と相俟って劇的な新卒採用増は見込めないと思われる。そこで、こうした状況に柔軟に対応すべく就職支援対策の各々について更なる検討・強化を図り、平成25年度及び平成26年度（未確定）実績を堅持することを目標とする。入学時から複数用意されている進路支援関連カリキュラムに加え、就業力GP採択を受けて設置したキャリア関係科目の充実を図る。また、「キャリアセンター（キャリア支援課）」において、更なる情報の集約化・業務効率化、多くのサービス提供等を進化並びに安定化させることで、学生支援体制の充実を図ると共に、大学・短期大学共通のキャリア教育体制による中長期的な就職支援と短期的な就職指導の融合による相乗効果を引き続き狙うこととする。具体的には、面接・筆記試験対策をはじめ、学生と企業の出会いの場である本学業界・企業研究フェア等の各種支援事業などを通じて、学生の就職活動を強力にバックアップしていく。更に、教員・キャリア支援課スタッフとの個人面談をキメ細かく行うと共に、保護者を対象とした個人懇談会も実施し、家庭、学生、大学間の関係を密にし、情報を共有することで、変化の激しい就職状況に攻めの姿勢で臨んでいく。

なお、参考までに平成26年度の職業紹介状況が未確定のため平成25年度実績を次に示すこととした。

－ 平成25年度事業報告書の再掲 －

【職業紹介状況】

項目	人間総合学科			幼児教育学科			計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
就職希望者数	8	184	192	2	124	126	10	308	318
就職決定者数	8	179	187	2	124	126	10	303	313
就職率（％）	100.0	97.3	97.4	100.0	100.0	100.0	100.0	98.4	98.4

【新潟青陵高等学校】

生徒納付金収入は、厳しい生徒募集環境に鑑み、1年生は定員360人に対して324人とし、合計905人で積算した。補助金は、新潟県魅力ある私立高校づくり支援事業が引き続き継続されることもあり、前年度と同額で積算した。また、スクールバス運行に係る報酬委託手数料が1千900万円の増額となるが、スクールバス利用者への運賃値上げに加え、経費支出の見直しを図ることとした。これらのことから、前年度に比して3千376万円増加の積算となった。

一方、人件費支出は、「新潟青陵高等学校経営改善計画」に基づく計画的な人件費抑制等を図っているが、昇給の影響もあり、退職金を除いた比較で前年比368万円の増額積算することとした。教育研究経費支出、管理経費支出は、前述の国土交通省による貸切バス事業者の運賃・料金制度改正に伴い報酬委託手数料が1千900万円の増額となるが、他の支出を経年の比較で最低限まで削減したことと、バス運行業者の協力による寄付金収入の増加で、学納金の値上げを行うことなしに対応することとした。一方で、昨年度と同様、他校と同程度に入学金減免措置を拡充し、入学時の費用負担を軽減することで生徒確保に資することとした。

経営改善計画により、平成23年度より内部取引勘定（前年度短期大学部からの借り入れ金）を1千万円の定額返済としたこともあり、次年度繰越支払資金は1億6千102万円（前年度9千944万円）と増額となる見込みである。事業活動収支計算（消費収支計算）では単年度の収支差額（消費収支差額）は、前年度の消費支出超過額（赤字額）5千634万円から4千785万円の支出超過へと減少した。

なお、改善計画により、平成24年度より短期大学部からの内部借り入れは行わない計画であるため、今後は、改善計画の着実な実行と、生徒の確実な確保がより一層重要であるといえる。

【資金収支】

単位 千円

収入科目	金額	支出科目	金額
帰属収入の計	765,810	人件費支出	554,360
（うち、授業料収入	374,030）	教育経費・管理経費支出	167,690
（うち、補助金収入	349,900）	借入金等返済・利息支出	6,940
借入金等収入	0	施設関係・設備関係支出	12,080
前受金収入	42,240	資産運用支出	26,740
その他の収入	127,340	その他の支出	33,850
		〔予備費〕	4,520
		学校法人経費按分額	10,410
資金収入調整勘定	△ 52,800	資金支出調整勘定	△ 5,760
内部取引勘定	0	内部取引勘定	10,000
前年度繰越支払資金	99,402	次年度繰越支払資金	161,202
計	982,032	計	982,032

【事業活動収支（消費収支）】

収入科目	金額	支出科目	金額
帰属収入の計	766,270	人件費	554,360
（うち、授業料収入	374,030）	教育経費・管理経費	226,530
（うち、補助金収入	349,900）	（うち、減価償却額	58,840）
		借入金等利息	670
		資産処分差額等	1,800
		債務保証損失引当金繰入額	0
		〔予備費〕	3,340
基本金組入額	△ 17,100	学校法人経費按分額	10,410
計	749,260	計	797,110
		当年度収支差額	△ 47,850
		前年度繰越収支差額	△2,085,308
		翌年度繰越収支差額	△2,133,158

現在の最重要課題は、募集定員を満たす「生徒数の確保」である。

当面の課題は、①大学進学への推進、②不登校生徒の受入れ拡大に伴う全通併修制度の効果的な実施、③部活動の活性化の三つである。

これらの課題に取り組むとともに、義務教育段階の「学び直し」をはじめ、経営品質向上の手法を活用した面倒見の良い教育の実践に努める。

【新潟青陵幼稚園】

園児納付金収入は積算園児数 151 人で積算した。未就園児対象のつぼみの広場参加者が増加していること、満 3 歳児クラスがほぼ予定通り園児確保ができていること、また広報と子育て講座の連動実施の P R 効果等により、少子化状況下の中、安定した園児確保に向けた素地ができてきている。

また、将来の認定子ども園化をにらみ園舎の幼稚園棟と保育園棟の 2 期に分けて建設することとし、平成 26 年度より幼稚園棟の建設を開始しており、7 月末には完成・引き渡し予定である。これに伴う建設費・備品費 5 億 8 千 589 万円を計上し、建設原資は、学園で計画的に積み立てている施設拡充引当特定資産及び新潟県子育て支援対策臨時特例交付金を持って充当することを予定している。

これらのことから、事業活動収支計算における単年度の消費収支差額は、5 億 1 千 847 万円のマイナスとなる見込みである。

【資金収支】

単位 千円

収入科目	金額	支出科目	金額
帰属収入の計	89,400	人件費支出	56,740
（うち、授業料収入	39,840)	教育経費・管理経費支出	31,690
（うち、補助金収入	42,820)	借入金等返済・利息支出	0
借入金等収入	0	施設関係・設備関係支出	586,290
前受金収入	1,840	資産運用支出	0
その他の収入	536,720	その他の支出	1,280
		〔予備費〕	230
		学校法人経費按分額	1,160
資金収入調整勘定	△ 6,590	資金支出調整勘定	△ 1,280
内部取引勘定	10,742	内部取引勘定	0
前年度繰越支払資金	44,097	次年度繰越支払資金	100
計	676,210	計	676,210

【事業活動収支（消費収支）】

収入科目	金額	支出科目	金額
帰属収入の計	89,500	人件費	56,740
（うち、授業料収入	39,840)	教育経費・管理経費	43,550
（うち、補助金収入	42,820)	（うち、減価償却額	11,860)
		借入金等利息	0
		資産処分差額等	33,290
		債務保証損失引当金繰入額	0
		〔予備費〕	150
基本金組入額	△ 473,080	学校法人経費按分額	1,160
計	△ 383,580	計	134,890
		当年度収支差額	△ 518,470
		前年度繰越収支差額	△ 479,483
		翌年度繰越収支差額	△ 997,953

2. 当該年度の主な事業の目的・計画

【新潟青陵大学】

本学は、本学の教育理念である「生命尊重・人間尊重の理念に基づき、国民の福祉と健康を支え、全人的な視点からこれを保障するという社会の要請に応えるとともに、クオリティ・オブ・ライフ（QOL）の向上」を実現すべく、看護学部と福祉心理学部の2学部間並びに福祉心理学部内に設置する2学科間の連携のもとに教育・研究を行い、医療福祉面での地域社会に貢献できる人材の養成」という実学教育の実現を目指している。

看護学部は、本学の教育理念である「生命尊厳・人間尊重」と、教育目的の「国民の健康と福祉を支える実践的な人材を培う」に基づき、「ケアの心を備えた人材の育成」を教育研究上の理念の大方針としている。そこで、看護学部の教育上の目的は、「生命尊厳・人間尊重」の理念を基盤とする高い倫理性と豊かな人間性を培い、健康課題に対応する実践的能力を身につけ、地域・国際社会に貢献できる看護の専門職業人を育成することにある。併せて、保健・医療・福祉・教育分野の連携を図りながら教育研究を推進し、人々の生活の質向上に貢献する。この目的を達成するために、本学部看護学科を設置している。

看護学科は、看護の専門職者を目指す学生に、科学的根拠に基づく看護、そして学際的視野をもった看護ができる基礎づくりが可能となる教育内容をもって教育している。それは、看護の対象論、目的論、方法論の学習と共に、関連する医学、心理学、社会福祉学、情報科学、他の学びを統合し、論理的思考により科学的・学問的に証明され、評価された看護を探求する姿勢を育てることである。本学でこれまで築いてきた福祉心理学部の学生と共に学ぶことで培われてきた「社会福祉学や心理学に強い看護職」の精神は、今後も継承される看護学科の特色のひとつである。

また、看護学科では看護師養成を行い、希望者には保健師、助産師もしくは養護教諭一種免許状を取得できるプログラムを用意している。

福祉心理学部では、生命尊厳・人間尊重の理念に基づき、開学以来の福祉心理学部で重視してきた社会福祉学と心理学をコアとした学びを提供し、ケアのこころ（自らケアができ、ケアされる側の気持ちを理解する）を持った人材の育成を目指している。人々の生活を支援するためには、福祉に関する制度や援助のための技術とともに、心理学に裏付けられた人間理解や支援のための知識や方法が重要である。

福祉心理学部の教育上の目的は、「生命尊厳・人間尊重の理念に基づき、人々の生活の質の向上を図るため、社会福祉学・心理学・社会学等の専門知識・技術の応用力と豊かな感性、国際感覚を持ち合わせた専門家を養成する」ことである。この目的を達成するために、本学部社会福祉学科と臨床心理学部の2学科を設置している。

社会福祉学科は、地域社会のさまざまな福祉・対人支援の現場で第一線に立ち、社会が抱えるさまざまな課題に対処し得る、社会福祉の専門職養成を第一義的な目標としている。臨床心理学部は、臨床心理士など高度な専門職業人の養成の基礎段階を担うこと、及び、幅広い職業分野で、臨床心理学的視点を持った、職業人の養成に重点を置いている。こうした専門科目にくわえ、他学科履修科目を充実させることにより、学部内における2学科3コース間での相互の学びと主専攻・副専攻的な学びを保証している。

中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」の提言する「高等教育の多様な機能と個性・特色の明確化」を踏まえ、全学共通科目に「基幹科目（人文科学領域、社会科学領域、自然科学領域、複合・学際領域）」「外国語教育と国際交流」「地域連携とボラン

ティア」「就業力育成科目」を配置することで、社会福祉学・心理学・社会学等の専門知識・技術の応用力を身につけ、人々の生活の質の向上に貢献できる人材を育成することはもちろん、豊かな感性と国際感覚をも合わせ持った専門家を養成することを目指している。

大学院看護学研究科では、看護学を実践の科学として発展させるために、研究フィールドを看護領域の現場に置き、実践に活かせる教育研究を推進できる高度専門職業人の育成を目的としている。これらの人材は、エビデンスに基づく知見・知識を活用し、看護の問題を科学的に思考し解決能力を高めて、看護の質向上に寄与することが期待される。教育研究における基盤としては、「ケアの心」と「実践知」の2つのキーワードを掲げ、「高度な専門的な知識と技術をもった教育研究者」「学際的かつ国際的な感性をもった指導者」「人間性豊かな感性をもち、地域の健康支援に取り組む指導者」の育成を目指している。なお、本研究科では、専門職である看護職のキャリア教育を推進するために、仕事を持つ社会人の学生（以下「社会人学生」）を受け入れ、勤務を継続しながら大学院で学修できる長期履修制度を導入している。

大学院臨床心理学研究科では、臨床心理学に対する精深な学識を基に、広い視野をもって心理臨床の場に臨める、「心の専門家としての高度専門的職業人」「地域や文化に職務を通して貢献できる高度専門職業人」「実践的で有効な援助が可能な技術と人格を備えた高度専門的職業人」の育成を目指している。さらに、大学院に研究生制度を置くことにより、高度専門的職業人としての卒後教育が可能となり、研修会や自主ゼミが活発に行われている。なお、日本臨床心理士資格認定協会による第一種指定大学院の必備の施設である新潟青陵大学大学院臨床心理センターは、院生の実習施設であり、市民からの心の相談に応じている。

なお、新潟青陵大学では、今後の教学運営方針として、長期目標（2014年～2023年）及び中期目標（2014年～2018年）を設定し、7つの基本項目に分けて中期活動課題及び活動計画を策定した。（巻末「【参考】新潟青陵大学中期計画」を参照のこと。）

【新潟青陵大学短期大学部】

本学は、人間総合学科と幼児教育学科を擁し、地域と時代のニーズに応えられる人材育成を目標に掲げている。学生には社会人として自立する基盤となる専門的な知識、技能の取得を積極的に促し、社会人にはスキルアップのための生涯学習の場として価値ある学修の機会を提供することを目指している。

人間総合学科人間総合コースは、学生の興味、関心、取得希望資格等に対応する多様な履修形態を可能にすることを特色としている。幅広く学べる自由さと、特定の分野を集中して体系的に学ぶことを同時に満足させるため、アドバイザー制をもとにしたきめ細かな履修指導を行っている。学科の認定資格（単位修得によって取得できる）であるビジネス実務士、衣料管理士、フードスペシャリスト等、対策授業を経て検定試験受験により取得可能なカラーコーディネーター、医療事務、国内旅行業務取扱管理者等々、多様な職業に必要な知識と技能を授け、幅広い分野で活躍できる人材の育成を目的としている。また、人間総合学科介護コースは、介護に関する知識と技術の習得を目的とした厚生労働省が指定する介護福祉士養成施設であって、あたたかい心を持った「介護のスペシャリスト」の育成に努めている。

幼児教育学科は、幼稚園教諭と保育士の養成を目的にしている。教育基本法と児童福祉法の理念に基づき、将来を担う子どもの保育と教育の向上を目指して、ひとり一人の子どもの最善の利益のために努力し、自らを成長させる人間性豊かな保育者を育成することを教育理念に掲げ、学科の全教員の共通理解の下で学生をきめ細かく指導する体制をとっている。また、学科が目指す質の高い保育者養成が、保育現場からの支持と高い評価を得られるよう努めている。

文部科学省の設置基準では、学生が自立して仕事を探し、社会人として通用するように、大学、短大の教育課程に職業指導（キャリアガイダンス）などを盛り込むことが義務化されており、両学科とも社会人として必要なマナーを身につけ、就業力を備えた人材の育成を目標として掲げている。人間総合学科では、既に設立当初より進路支援および就業体験などのカリキュラム化を行い、就職状況や学生ニーズに合わせてその改善を行ってきた。学生のキャリア教育科目の充実を図るとともに、キャリアフィールド内により実践的な科目群を設置し、社会に出てからも自力で人生を切り開ける就業力を養うため、各種講座やインターンシップをはじめとした体験実習等の実施との相乗効果を狙っている。幼児教育学科では、実習関連施設との連携を深め、保育現場のニーズを受け実践力の高い保育者の養成を目指す。

【新潟青陵高等学校】

（１）生徒数の確保

入試広報部を中心に、全教職員による募集活動を強力に進める。

このため、生徒募集についての年間計画を作成し、定期的に中学校・塾への訪問や聞き取り調査等を行い、広報活動を積極的に進める。オープンスクール、学校説明会等への中学生・保護者の参加を募り、志願者数の増加を目指す。また、生徒募集のノウハウを学ぶため、先進校視察なども行う。

（２）大学進学への推進

大学進学への推進が生徒・保護者の要望であり、生徒数確保の大きな要素でもあることを学校全体で確認し、積極的に取り組む。

このため、進路指導部のスタッフの充実、進学指導態勢の確立、進学指導のノウハウの共有を目指す。また、大学進学についての３年間を見通した指導計画を立て、１、２学年から受験講座や個別指導等を積極的に行うなどして、全体の大学進学率アップを目指すと同時に、国公立大学 10 名以上・難関私立大学 15 名以上の合格を目指す。

（３）不登校生徒の受入れ拡大に伴う全通併修制度の効果的な実施

生徒数の確保の一貫として、今年度から不登校生徒の受入れを拡大することにした。

当該生徒にはできるだけ普通教室での学習ができるよう指導していくが、不登校が続く場合には教職員の共通理解のもと、全通併修で学ぶことができるようにする。そのため、学習環境を整備し、サポートスタッフを増員するとともに、定期的にスクールカウンセラーとの面談もできるようにしてメンタル面でも配慮する。

（４）部活動の活性化

学校全体に文武両道の気風を育成するとともに、生徒数確保の面でも貢献していく。

従来からスポーツ面で活躍できる優秀な生徒の志願、入学を促進してきたが、さらなる活性化を目指す。そのため、これまで強化の対象としてきたバドミントン、卓球、バ

レーボール以外の部にも、スポーツ推薦・スポーツ専願の枠を拡大（奨学金の増加）し、顧問による勧誘活動を強める。

【新潟青陵幼稚園】

「大人になった時に、真に思考力のある自立した人間」（シュタイナー）となるために、幼児期にはその基礎となる意志、感性、感情を育てることが求められている。

この基礎を踏まえて、人と人ががじかに触れ合い、意見のぶつかり合いやいざこざも乗り越え、良好な人間関係を作ることが出来るように、人とかかわる力を育てていく。

また、自らの興味関心に基づいて取り組むことが出来るように感性を育み、そして、子どもが意欲を持つことができるように主体性を育てていくこととする。

その実現のために、今年度は以下3つの項目に重点を置いて教育にあたることとする。

① 「友だちとイメージを伝えあい、心を通わせて遊びを進めようとする子ども」

自分の遊びに対するイメージを言葉にして相手に伝え、お互いのイメージを分かりあって、相談することができるように、保育者が子どもの気持ちの橋渡しをして、友だちの気持ちを聞くことができるようにしていく。

② 「自然事象の変化に気付き、不思議さや美しさに驚きをもって感じる子ども」

自然に触れて感性が育まれる、感性が育まれることによって、子どもは対象に興味を持ち、関心を持ち、知りたい思いを持つようになっていく、このことは、対象に共感することとなり、学びの意欲へつながっていく。子どもたちが主体的に物事に取り組み、興味関心を持つことができるように、自然の中で遊び、感性を育てていく。

③ 「やりたい気持ちをもって物事に取り組み、考えたり工夫したりする子ども」

こどもが自らやりたいと思ったことに取り組めるように、教材の用意、十分な時間を確保し、主体的に遊びに取り組む面白さや楽しさを味わう事ができるようにする。

Ⅲ. 財務の概要

1. 貸借対照表関係比率

当初予算策定時に 26 年度及び 27 年度を確定及び予測することは困難なため、24～25 年度分を参考までに掲載することとした。

No.	比率名	算出方法	平成24年度	平成25年度
1	固定資産構成比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}}$	82.3%	83.6%
2	有形固定資産構成比率	$\frac{\text{有形固定資産}}{\text{総資産}}$	66.1%	63.9%
3	特定資産構成比率	$\frac{\text{特定資産}}{\text{総資産}}$	16.0%	19.5%
4	流動資産構成比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{総資産}}$	17.7%	16.4%
5	固定負債構成比率	$\frac{\text{固定負債}}{\text{負債} + \text{純資産}}$	5.4%	4.7%
6	流動負債固定比率	$\frac{\text{流動負債}}{\text{負債} + \text{純資産}}$	7.5%	6.3%
7	内部留保資産比率	$\frac{\text{運用資産} - \text{総負債}}{\text{総資産}}$	19.3%	22.5%
8	運用資産余裕比率	$\frac{\text{運用資産} - \text{外部負債}}{\text{事業活動支出}}$	92.7%	107.0%
9	純資産構成比率	$\frac{\text{純資産}}{\text{負債} + \text{純資産}}$	87.1%	89.0%
10	繰越収支差額構成比率	$\frac{\text{繰越収支差額}}{\text{負債} + \text{純資産}}$	18.6%	15.5%
11	固定比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{純資産}}$	94.5%	93.9%
12	固定長期適合比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{純資産} + \text{固定負債}}$	89.0%	89.1%
13	流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	235.9%	262.8%
14	総負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{総負債} + \text{純資産}}$	12.9%	11.0%
15	負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{純資産}}$	14.8%	12.3%
16	前受金保有率	$\frac{\text{現金} - \text{預金}}{\text{前受金}}$	285.4%	268.7%
17	退職給与引当特定資産保有率	$\frac{\text{退職給与引当特定資産}}{\text{退職給与引当金}}$	38.1%	49.6%
18	基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	97.0%	98.2%
19	減価償却比率	$\frac{\text{減価償却累計額}(\text{図書を除く})}{\text{減価償却資産取得価額}(\text{図書を除く})}$	48.5%	49.0%
20	積立率	$\frac{\text{運用資産} - \text{要積立額}}{\text{要積立額}}$	73.0%	76.3%

2. 事業活動収支計算書関係比率

No.	比率名	算出方法	平成27年度				
			部 門				
			大学	短大	高校	幼稚園	合計
1	人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$	65.1%	59.4%	72.3%	63.4%	66.1%
2	人件費依存率	$\frac{\text{人件費}}{\text{学生生徒等納付金}}$	76.7%	69.7%	148.2%	142.4%	88.3%
3	教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$	24.4%	24.5%	18.8%	32.5%	23.3%
4	管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入}}$	9.0%	10.9%	10.8%	16.2%	10.6%
5	借入金等利息比率	$\frac{\text{借入金等利息}}{\text{経常収入}}$	0.1%	0.1%	0.1%	0.0%	0.1%
6	事業活動収支差額比率	$\frac{\text{基本金組入前当年度収支差額}}{\text{事業活動収入}}$	-0.9%	-0.2%	-4.0%	-50.7%	-2.9%
7	基本金組入後収支比率	$\frac{\text{事業活動支出}}{\text{事業活動収入 - 基本金組入額}}$	96.6%	96.8%	101.8%	24.0%	86.7%
8	学生生徒納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{経常収入}}$	84.8%	85.2%	48.8%	44.5%	74.9%
9	寄付金比率	$\frac{\text{寄付金}}{\text{事業活動収入}}$	0.0%	0.1%	1.8%	0.1%	0.5%
	経常寄付金比率	$\frac{\text{教育活動収支の寄付金}}{\text{経常収入}}$	0.0%	0.1%	1.8%	0.1%	0.5%
10	補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{事業活動収入}}$	11.3%	10.7%	45.7%	47.8%	20.7%
	経常補助金比率	$\frac{\text{教育活動収支の補助金}}{\text{経常収入}}$	11.3%	10.7%	45.7%	47.8%	20.7%
11	基本金組入率	$\frac{\text{基本金組入額}}{\text{事業活動収入}}$	-4.5%	-3.6%	-2.2%	-528.6%	-18.8%
12	減価償却額比率	$\frac{\text{減価償却額}}{\text{経常支出}}$	7.7%	7.8%	7.4%	11.7%	7.8%
13	経常収支差額比率	$\frac{\text{経常収支差額}}{\text{経常収入}}$	0.1%	3.5%	-3.8%	-13.5%	-0.4%
14	教育活動収支差額比率	$\frac{\text{教育活動収支差額}}{\text{教育活動収入計}}$	-0.8%	2.3%	-3.7%	-13.5%	-1.1%

3. 過年度の資産総額（純資産額）の推移

当初予算策定時に26年度及び27年度を確定及び予測することは困難なため、24～25年度分を参考までに掲載することとした。

単位 円

年度	基本金組入額	消費収支差額	純資産額
25	11,152,758,367	△ 1,657,790,503	9,494,967,864
24	10,722,966,436	△ 1,890,595,145	8,832,371,291

【参考】新潟青陵大学中期計画

長期目標(2014-2023年): 地域の看護・福祉・心理分野のイノベーションセンターとしての大学とする	
中期目標(2014-2018年): 「新潟青陵学」を育てる教育・研究・社会連携プラットフォームを形成する	
基本項目Ⅰ. 「組織・運営基盤」の中期目標: 大学のたゆまざる進展を図る組織・運営基盤構築	
中期活動課題	中期活動計画
1 自己点検評価と連動した大学の内部質保証の確立	1. 内部質保証としての評価体制の確立と評価結果の公開 2. IR推進室による内部質保証に資する各種データの集積(データバンク)と解析 3. 教育・研究・社会貢献・管理活動における優れた教員への表彰制度の検討
2 学士・修士課程充実と、学部・大学院(修士、博士課程)新設・拡充	1. 教員の教育・研究環境の整備(サバティカル制度導入等)口 2. 教員の学問的素質の向上と専門性強化による人材育成 3. 学部、学科、研究科の増設・新設
3 業務の効率化と教職協働・連携強化による組織体制の確立	1. 職員の職位別能力の明確化と専門性を併せ持つ組織体制 2. FD・SD活動による良質な教職員育成と連携体制による教育・研究・社会連携・管理運営の向上 3. 学園としてのスケールメリットの活用と適切な人員配置による事務組織
4 キャンパス内の学習・居住・運動環境整備	1. キャンパス内の教育、運動、交流、文化活動環境整備 2. 教学の将来の方向性を見据えた校舎機能の整備・拡充
基本項目Ⅱ. 「入試」の中期目標: 18歳人口減少、進学率増加、社会の多様化に対応した入試システムの改善と広報活動強化	
中期活動課題	中期活動計画
1 18歳人口減少に対応する入試システムと関連広報活動の強化	1. 学生定員確保へのマーケティングリサーチと広報活動強化 2. 受験者動向と学校側の指導方針等の解析・把握による入試対応 3. 教員の得意分野、学科のPRポイントなどが反映された広報内容の充実・強化 4. 学生募集につながる奨学助成制度の検討
2 アドミッションポリシーの明確化による良好な学生の確保	1. 求める学生の獲得と、高校卒業前に予め修得しておくべき内容・水準の明確化 2. 高大接続を配慮した初年次教育プログラムの充実
3 高校との連携強化による高い学習能力のある学生確保	1. 県内高校との連携強化による質の高い学生の確保 2. 高大一貫コースを中心とする新潟青陵高校との互恵的関係の構築口
4 質の高い入試への対応と効率的な入試業務の構築	1. 受験生の利便性向上を考慮した入試手続きの改善(Web出願など) 2. 社会人入学・留学生の受け入れ策、入試制度変更への対応等の多様な入試方法の検討 3. 学園内入試情報の共有化と入試業務の効率化 4. 入試区分毎の入学後学習状況の追跡調査による入試区分毎の入学定員の改善
基本項目Ⅲ. 「教育(教学)」の中期目標: 教育の質的転換と教育環境整備	
中期活動課題	中期活動計画
1 教学の多様性に即応可能な基盤の形成	1. FD・SD推進による教育力開発・充実と、教職協働の相乗効果による教学システムの運用 2. ディプロマ・カリキュラム・アドミッションポリシー(3P)に基づく教学の推進 3. 成績評価の厳格化と、GPAの実質化による履修諸条件の基準作り 4. 履修系統図、ナンバリングによる全授業科目の体系化(3と連携)
2 教学の質的転換促進による質保証	1. 学生の主体的学修を確保する学習環境の改善 2. カリキュラム・ポリシーに基づく授業改善 3. ディプロマ・ポリシーに基づく学習成果の把握 4. 学習成果としての資格獲得と進路状況把握と改善 5. 大学と大学院(修士)が一体化した教育システムの導入
基本項目Ⅳ. 「研究」の中期目標: 教育、地域活動にも繋がる実践的研究の推進	
中期活動課題	中期活動計画
1 外部・内部の競争的研究費の獲得による教育・研究の推進・強化	1. 外部研究資金獲得推進・強化と知的財産の獲得・管理 2. 学術研究委員会の強化・改組による研究のシーズとなる共同研究費活用支援の充実
2 学術集会、学術誌への教育・研究成果の公開	1. 新潟青陵学会の活性化 2. 専門分野学会発表並びに和文並びに欧文による論文投稿の強化・推進
3 教育・研究成果のグローバルな発信	1. 機関リポジトリや類似方法による研究成果の積極的公開
基本項目Ⅴ. 「学生支援」の中期目標: 充実し安心できる学生生活の保証	
中期活動課題	中期活動計画
1 学生相談・支援活動の整備・拡充	1. 関連部署の連携による総合的な学生支援体制の強化 2. 障害をもった学生への支援体制強化 3. アドバイサーの質の向上と、学生カルテ・ポートフォリオ等を用いた最適な学生支援強化
2 充実した学生生活の確保	1. 退学者の背景と対応を解析による退学者の早期発見・対応 2. 経済的困窮度の高い学生への奨学支援制度の充実 3. 成績優秀学生への奨学金制度の創設 4. 保護者懇談会の拡充 5. 同窓会組織の強化による在校生支援の充実
3 人とのつながりを促進する課外活動、課外教育プログラムの改革と強化	1. ボランティアセンターにおける関連活動拠点拡充と情報交換等による人材育成推進 2. メディアキャンパスを活用した地域貢献活動を通じた学生の社会人基礎力養成・強化 3. 課外活動用施設・環境充実による活動内容の拡充・活性化
4 キャリアセンターによる地域と協働するキャリア教育実践体制構築	1. 地域社会・産業界の要請に対応できるディプロマ・ポリシーに基づくキャリア教育の充実 2. 学生のキャリア形成に繋がる就業力育成体制の強化 3. 地域と協働したキャリア教育実践に向けたインターンシップ型キャリア教育プログラムの導入

基本項目Ⅵ.「社会連携と生涯学習」の中期目標:看護・福祉・心理学などの分野と関わるステークホルダー*との協働による地域振興・活性化 (*学生、教職員、地域住民、行政機関、関連する諸団体・機関)	
中期活動課題	中期活動計画
1 大学の社会連携活動を“第三の使命”と明確に位置づけた活性化	1. 社会連携プロジェクトを積極的に企画・支援を行うシンクタンク設置による社会連携事業の強化・推進 2. 社会に貢献できる自律的人材としての社会連携事業コーディネーター及びリサーチアシスタントを行う人材育成
2 教育・研究の積極的な発信と教職員の教育・研究の活性化	1. 大学の主要活動と連動した公開講座の強化・推進 2. 研修センターにおける大学の教育・研究と関連する各種研修による地域の人材育成の強化・促進 3. 科目履修生制度、特別受講生制度の活発な展開
3 ステークホルダーとの協働・連携強化による地(知)の拠点形成	1. 地元自治体等と包括協定を締結し、幅広い地域連携活動の推進による「知の拠点」形成 2. サテライトキャンパスにおける学生・教員の教育・研究と、地域住民の生涯教育推進 3. 大学施設(図書館等)の市民・地域への開放促進 4. 「なぎさ荘」の有効活用推進 5. 近隣地域の保健的セーフティネット構築
基本項目Ⅶ.「国際交流」の中期目標:看護・福祉・心理学分野のグローバル化への対応	
中期活動課題	中期活動計画
1 海外研究者・学生との交流推進に向けたグローバルネットワーク構築	1. 海外の大学間協定締結拠点大学との国際学術交流促進窓口
2 グローバル化に則した国際理解の教育・研究の強化・推進	1. 外国語教育の充実 2. 海外での技術研修、ボランティア活動の拡充 3. 学生の留学支援プログラムの設置・促進 4. 留学生受け入れの検討

平成 27 年度事業計画書

学校法人新潟青陵学園

目 次

序文	1
I. 法人の概要	
1. 建学の精神	3
2. 法人の目的	3
3. 設置する学校・学部・学科等.....	3
4. 教育方針・教育目標	3
5. 学校法人園の沿革	1 3
6. 学校・学部・学科等の学生数の状況	
1) 平成27年度当初予算策定時における学生数の見込み	1 5
2) 参考：25年度（募集年度）および26年度（入学年度） の状況	1 6
7. 役員の概要	1 7
8. 評議員の概要	1 7
9. 当初予算策定時における27年度教職員の見込み （学長・校長・園長を含む）	1 9
II. 事業計画の概要	
1. 当該年度の事業（経営）の概要	2 0
2. 当該年度の主な事業の目的・計画	2 8
III. 財務の概要	
1. 貸借対照表関係比率	3 2
2. 事業活動収支計算書関係比率	3 3
3. 過年度の資産総額（純資産額）の推移	3 3
【参考】新潟青陵大学中期計画	3 4